

第133回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成28年7月

日時: 2016年7月29日(金) 18:00-19:30

場所: 神奈川大学24号館 310号室

◆主催: 防災塾・だるま

司会: 小原茂 記録: 紅林敏行

◆談義の会参加者: 会員 25名(含む報告者)

一般0名 計25名 (敬称略)



池田さんの挨拶



鶴谷さんの報告資料から抜粋

左: 田老地区・完成予想図 中: 山田町復興状況 右: 山田町新旧防潮堤



テーマ: 『岩手県山田町5年目の今!』

～報告: 山田町周辺を巡る(7/1～3)参加者レポート(防災塾・だるま)～

報告: 池田・小原・高松・鶴谷・中島・田中(喜)・田中(晃)・玉井・山本さん(防災塾・だるま会員)



小原さん(司会)



報告の風景

★協力者(防災塾・だるま会員) <<感謝>>

- ・現地: 浦辺利広さん(山田町在住)、渡辺善明さん(大槌町勤務)
- ・企画: 佐々木義雄さん

★行程: 「田老～宮古市～山田町～大槌町～釜石市」

★現地レポートの方々

岩手大学・船戸氏(地域コミュニティ再生支援班、特任研究員)

山田町・鈴木副町長(農水省より出向)

山田町・川石氏(隼川石水産社長)

宮古市田老の語り部・佐々木さん

★「熊がでた!」(浦辺さん宅で散歩中に遭遇)

<<震災から5年経過、どこも復興途中>>

★多額の費用をかけ、超巨大防潮堤の建設が防災になるのか?

避難路・避難施設を高台に整備して日常的に防災訓練を継続する方が得策では!

★大槌町の中心地から少し入ると仮設住宅が軒並み並んでいる。町によって復興に差が。

5年たってやっと高台住宅地ができ、既存被害地の復興工事はこれから。民間の工場や商店の進出は殆ど見当たらない状況。住民が戻ってきている感じがしなかった。

★今回の津波が過去最大だが、「死者不明/戸数」は格段に減少。教訓が大事!

★津波が感じられなくなった景観が残念。

(鶴住居小学校/釜石東中学校が高台に移転。)

★自己紹介ツール「4コマ」をアレンジしてだるまで体験したい(共通点や類似点を見つける)。



山本さんの報告資料から抜粋



<<防潮堤の高さの意味>> 山本さん

- ・山田町の防潮堤は6.6～10mの高さ目標で整備中。明治三陸大津波の高さまでの津波に対して、防潮堤で生命・財産を守るという意味。
- ・防潮堤はあまりにも高く、多くの住民の方が違和感を感じている。

次回(第134回)案内

- ・日時: 2016年8月26日(金) 18時～19時30分
- ・会場: 神奈川大学1号館301号室
- ・話題: 関東大地震と耐震建築 ～赤煉瓦から鉄筋コンクリートへ～
- ・講師: 青木 祐介氏 (横浜都市発展記念館 主任調査研究員、工学博士)